

# 「大門宿本陣由緒書」を讀む 解説

「本陣由緒持高余業有無家内人数御尋二付書上」

(会田家文書一〇九二)

(表紙)

本陣由緒持高	御尋二付書上
余業有無家内人数	
日光	
御成道大門宿	
本陣	
平左衛門	

(二丁目表)

由緒書

日光 御成道大門宿

本陣

平左衛門

當(当) 宿之儀者、以前村方ニ候處(処)、寛文之頃方宿方

同様人馬継被仰付、元禄歳中宿方ニ御取立、私先祖

往古方當(当) 所草創住居罷在、元祖木村源吾

重明嫡孫常陸之介弟木村純庵世を辞して

(二丁目裏)

醫(医) 師ニ相成、元和元年遠州高巢ニ住居、

神君様御書を以、猩々緋御陣羽織拝領、又

御陣中江御供被 仰付時、甚眩暈之由申上、其

時劔(劍) 難除之御肌守壺對(対) 之内片々拝領、但シ

弘法大師之作ニ而長式寸六分、南蠻(蛮) 鉄を以、塔婆

之形、梵字ニ而六字之彫り有之、兄常陸之介嫡子

甥木村長門守豊臣重成、大坂御家臣ニ而七手

(二丁目表)

組番頭勤、嫡子木村八兵衛俊重、長門守ト同

大坂ニ仕、家之紋丸ニ四方花菱、松川菱、又輪ヌケハ、

四ツ日之一ヲ以スルト云也、元和元年五月五日長門守

弥以討死与極、嫡子満太郎を遠州高巢江送ル、

木村八兵衛蜜ニ大坂を出、遠州高巢ニ至り、満太郎

ヲ父純庵江渡し、純庵是を引取子トナス、此時満太郎

年六才、満太郎妹ハ父妾之方江送ル、満太郎母ハ

(二丁目裏)

間野豊後守娘ニ而長門守討死之前日自骸ス、

長門守姉ハ猪飼左馬之介江嫁ス、

神君様關(関) 東御入国之節、遠州高巢江被為

入、其時丸キ盆江菊形之菓子を置、庭前之萩

之枝を取、御箸トシテ獻(献) ス、御満足不残半分被

召上、半分盆江被為置、純庵是ハ能紋所ナリ、

替紋ニ可致ト上意ニ而紋拝領、丸之内半花菱

(三丁目表)

○アゲテ可認事

二ツ引拝領紋トス、其節

上意ニ而満太郎一同關(関)東江御供被 仰付

神君様御 城外御巡見之節、純庵、満太郎

御供被 仰付、城近方ニ住居可致旨 上意ニ而

御杖を以筋を被 為附、日本橋通壱丁目東側ニ

而間口拾七間、横行式拾五間、屋敷地拝領住居ス、

夫方日勤ニ而父子御側不去忠勤ス、度々知行

(三丁目裏)

可 被下置旨蒙

上意候得共、御家来同様之由申上辞退仕り

御請不申上候、度々御手當(当)金拝領仕候、依之木村

八兵衛儀ハ遠州高巢を出、武州大門之庄

會(会) 田外記ハ常陸之介岩槻陣ニ為懇意を以

當(当)所ニ来ル、永禄年中小田原北条家之旗下

會(会) 田中務丞嫡孫會(会) 田外記大門望濤(濤) 山ニ

(四丁目表)

住居、木村八兵衛其処ニ来ル、後居ヲ此所ニ移す、

依而外記之女を以妻トス、一男アリ、幼名牛千代、

母方之姓會(会) 田平左衛門俊明ト改名、同姓同苗を以

紀州様 御初代

南龍院様江被 召出御鷹場鳥見役被

仰付、御扶持方頂戴格式被仰付御普代並

御取扱ニ而、夫方一日も無休相続 御代々之内

(四丁目裏)

拝領物有之、今以相勤罷在候、此時會(会) 田外記

三代目之孫會(会) 田平左衛門次男孫四郎、平左衛門与改

出テ岩槻ニ仕、會(会) 田を相田与改、松平伊賀守様

御家来ニ成、今信州上田ニ子孫有之、相田平左衛門

与云、於茲望濤(濤) 山ニ會(会) 田之姓を神明ニ祭ル、手自ラ

松木を植テ為神木、今望濤(濤) 山を先祖山与

称ス、元禄十丑年御領主 松平伊賀守様

(五丁目表)

御国替、當(当)所上地ニ相成、 伊奈半左衛門様御代官

所ニ成ル、御 成道を改御下道ト唱、上道御

成道与改、此時大門村、西方村両村を一村ニいたし

御傳(伝) 馬宿ニ被 仰付候、其以前方名主役相勤メ、

御領主阿部備中守様方帯刀苗字御免被

成下格式被 仰付、寛永式拾年方延宝年

中未夕大門村、西方村両村之節御割付有之、